

第 220 回友の会 瓢箪崩山

～瓢箪崩山を望み長谷川沿いを歩く～

日 時：2023 年 10 月 8 日（日）

場 所 岩倉から長谷川沿いを瓢箪崩山へ

天 候 曇りのち小雨

参加者 一般 13 名（内子供 2 名） スタッフ 14 名

合計 27 名



ヤマトシジミ

京都盆地の北の端、岩倉・上長谷バス停前の児童公園に集合。午後から雨の予報なれど、友の会初の観察地に期待した人たちが集まりました。住宅と田畑が入り混じった田園風景を東へ、長谷川に突き当たります。川沿いのイタドリやハナタデ、また園芸種ながら真っ赤な星型の花が美しいルコウソウを観つつ、登山口へ。パン屋さんの向かいにツクバネガシ。葉は鋸歯が少なめ、裏面に巻いていて、断面がカモメが羽を広げたように見えます。

林道に入るとすぐ右に農業用水を取る飛驒池。メハジキとオハラメアザミが保護されています。エゴノキの虫こぶ（虫えい）は猫の足のような形。エゴノネコアシと言う（そのままやないか）。これはエゴノネコアシアブラムシのすみか（そのままやないか）。

イネ科のアシボソを巻き込んで、一年を通じて生態上の不思議な関係を取り結んでいます。ノイバラやウメモドキの実が赤く色づく。ノコンギクはヨメナに比べて葉の表面がざらつき、冠毛が長い。クヌギのドングリは 2 年かけて大きくなる。

ですから、太く育ったドングリは枝先ではなく奥についているはず。カラコギカエデは葉の形に注目。オカダイコンの花は散房状についています。



エゴノネコアシ



オカダイコンの花



ハナタデ



オカダイコン

川沿いだけに、サワガニも。日本固有種で、一生を淡水で過ごすカニは本種のみ。オスははさみの片方が大きい。キノコは日本だけで 4000～5000 と種類が多いので特定は難しい。ベニタケの仲間が2種類。白い方はシロハツか？それなら食べられますが、よく似たシロハツモドキは有毒。油断大敵。真っ赤な小さいキノコは……キノコであることは確かですが……。

京都大学の地震計測地で折り返す。聖護院門跡廟所で昼食をとり、恒例の店開き。サワガニの暮らし、エゴノキとアブラムシ、イネ科植物の関係、ドングリの樹種と種類について学びます。雨が降ってきましたので、やや足早に帰路につきました。ここ数日で急に秋めいてきた里山、谷筋の自然を満喫しました。(中川)



カラコギカエデ



ダイコンソウ



アケボノソウ



ウメモドキ



シロハツか？シロハツモドキか？



ベニタケの一種

